

平成20年(2008年)6月18日 (水曜日)

進出企業が見た今 ③

交流 加 深



南富士産業 社長 杉山 定久さん

を通して築いた人脈を生かして、中国で人材育成に取り組んでいる。

「GMC(グローバル・マネジメント・カレッジ)」

を満足させた。安価な労働

の魅力は頭脳」と言い切り、

「沿海部と内陸部には(貧

富の)格差があり、人口は

都市部に二割、農村に八割。

内陸にはお金がなくても能

力がある人がたくさんい

る」とみている。実践に即

した授業が学生に人気の理

由だ。日本の立場を殊更に

主張せず「アジアは一つ」

というグローバルな物の見

方も現地に歓迎されてい

る。

その後二〇〇五年には、

立ち、静岡県内の企業にも

卒業生を送られた。

広大な国土、ばく大な人

起因するさまざまな問題が

口、多様な民族と価値観に

東京オリンピックを機に成

長し、大国の仲間入りを果

たしたように、中国のさら

なる飛躍を信じている。



リーダー育成を目的に発足させたGMCで中国の若者を指導する杉山社長(中央) 中国・武漢

五輪を前に噴出した。多くの犠牲者を出した四川大地震からの復興もこれから本番だ。それでも、混とんとした情勢の中にも「オリンピックを成功させよう」という思いが伝わってくるという。

北京では競技施設、地下鉄、道路などの工事が急ピッチで進む。「工事ですごくいいホコリです。地震の影響で遅れはあるだろうけど、本番までには整然とした近代的な都市になっていくと思う」と期待する。日本が東京オリンピックを機に成長し、大国の仲間入りを果たしたように、中国のさらなる飛躍を信じている。

「頭脳が魅力」人づくり

「五輪は中国にとって真の大国としてのスタートになる」。住宅メーカー、南富士産業(三島市)を経営し、清華大や武漢大など中国の十六大学で客員教授として経営学を教える杉山定久社長(左)は、北京五輪をこつこつとやっている。杉山社長が中国とかかわるようになって約三十年。日中国交正常化間もない一九七八年、県の調査団に加わったのがきっかけだった。その後、古本の寄贈や奨学金授与などの文化交流